



# 夕焼け通信

## 2020.3.23 1254号

編集 宮森健次

〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-402  
miyaken@me.com gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/

続人生の踊り場58

# 今岡 幹

厄払い

二月下旬のことですが、出雲大社北島国造館にお参りして、数え歳六十一の厄除けの御祈禱をしていただきました。

観光客の皆さんにとつて出雲大社とは平成の大遷宮が行われた、いわゆる千家さんを思い浮かべるでしょうが、我々地元の人にとつての出雲大社とは本殿の東に位置する北島国造館、通称北島さんを指します。千家さんは神社庁管轄下の神社であることに對して、北島さんは厳密には神社ではなくて出雲教という宗教施設になるようです。

私も妻もそれほど信心深いほうではないのですが、形だけでも厄払いをしておかないと万一災厄が降りかかったときに後悔するでしょうし、厄払いをしたのにも拘らず何か起きたときは、この程度で済んだと思うことが出来ると考えれば安心なのです。

そしてそれは、ひと月も経たない内に現実のこととなりました。妻と二人で横断歩道を青信号で渡っているときに左折車に撥ねられてしまったのです。私の右隣を歩いていた妻に前方不注意の軽自動車が衝突して、その弾みで私もぶつかって二人とも道路上にひっくり返って

しまいました。夜の出来事でしたが、青天の霹靂としか例えようがないほどの驚きと衝撃でした。

幸い私は軽い打ち身程度で済みましたが、妻は病院で診察を受けて全治二週間の打撲傷と診断されました。その後、少し落ち着いてから妻がこう言ったのです。「私だったから厚い脂肪がクッションになって打撲傷程度で済んだかもしれんけど、もしおとーさんに直接車がぶつかってたら骨折してたかもね。」冗談ではなく、確かにその通りだったかもしれませぬ。妻には気の毒ですが、脂肪と神のご加護でこの程度で済んだと考えるより仕様がありません。

それにしても車に撥ねられた衝撃がこれほど激しいとは思っても寄らぬことでした。相手が発進直後の低速の軽自動車でさえこの有様なのですから、高速で走行している普通車に撥ねられたとしたらひとたまりもないでしょう。想像するだに怖気を震ってしまいます。

車の衝突防止装置も万一の際に備えるシステムであり過信するのは禁物です。例え煽られようが私は安全運転に務めます。後続車の方、悪しからず。

## 手作りのくらし2 47 木幡智恵美

ベスト (4)

モチーフを接ぎ合わせて作るベストにばかり、一枚編み終えたところで行き詰った。編み終えたモチーフが、えらく大きい。これを四枚接げば、大男用だ。毛糸が太すぎるのかも。一旦編んだモチーフを解き、球にしておく。そして、段を減らして編み直した。それでも、結構毛糸が入用になり、四玉ではできそうにない。雑誌のページをめくり、違うベストを探した。デザインとしては地味だけど、初めての編み方だし、挑戦してみようと思っ

た。雑誌にある通りに目数を揃えて編んでいく。かなり長く毛糸を延ばしながら編む部分があるのだが、どうも延ばす長さが短いのか、その部分が周りを引っ張ってひきつったような感じになってしまう。少し長めに延ばすが、やはり周りと合わず、編んでは解き、解いては編みしながら前身ごろを編み終えた。途中から嫌な感じはしていたが、やはり幅が広すぎる。大男用とまではいかないが、息子にちょうどいいくらいの大ききさになってしまった。やはりこれも雑誌に挙げられている毛糸より太いのか。目数を減らすしかない。雑誌の編み目の図に、左右同じ目数を数え、定規で線を引いた。引いた線内の目を編んでいけばいいのだ。

時に段を間違え、時に目を飛ばし、解いては編み、また解いては編みしながら、前身ごろを編み終えた。今度はちょうどいい幅だ。ひきつった部分もなく、いい感じだ。その調子で後ろ身ごろも編み終えた。裾、首回り、袖ぐりは違う編み方で編んでいく。失敗続きだったけど、毛糸だから編み直しがきき、何とか仕上げる事ができた。早速着てみる。暖かい。アルパカだ。目を閉じると、青い空にコンドルが…なんてことはないけれども、心地よい暖かさだ。

「これ、手編み？あつたかそうね」勉強会に着て出ると、そんな声をかけられた。ますます、体がホカホカしてきた。

**30代フリーター** やあ、ジイさん。朝日新聞が国内主要企業のうち「女性役員ゼロ」の14社に、女性役員が誕生しやすくなる条件を尋ねたところ、最も多かったのが「女性社員の昇進意欲の向上」と「女性採用者数の増加」でそれぞれ5社。「経営層の意識改革」は2社、「男性社員の意識改革」は1社だけだった(3月8日朝刊)。「女性社員の昇進意欲の向上」を阻んでいる最大の要因は男性が役員を独占していること自体にあることがうかがえる。

**年金生活者** 組織の意志が内部の多数派の利害で決まるとすれば、男性が多数派の組織で女性が少数派を脱するのは不可能に近い。それを変えるには組織の外部の力が必要となる。議員や閣僚の一定数を女性に割り当てるクオータ制が、多数決原理や競争原理を超えて導入されるのは必然性がある。

**30代** 朝日新聞の同じ記事は、世界経済フォーラムの男女格差(ジェンダーギャップ)の最新報告で日本が過去最低の世界121位になったことに触

れ、「その大きな要因が、政治や経済のリーダー層における女性の少なさだ」と説明している。

れ、「その大きな要因が、政治や経済のリーダー層における女性の少なさだ」と説明している。

**年金** 日本で格差の大きい理由のひとつとして、わが国に根強い母系原理の力を想定することができる。吉本隆明は『共同幻想論』で「未開の段階のあ

る時期に、女性が種族の宗教的な規範をつかさどり、その兄弟が現実的な規範によつて種族を支配したことがあった」とし、その社会を母系社会と呼ぶだ。

その残滓は今なお残っている。「女性が種族の宗教的な規範をつかさど」つた歴史は、現在では妻が家庭の主導権を握る形で引き継がれ、「その兄弟が現実的な規範によつて種族を支配した」過去は、夫が生計の主な担い手となる形で受け継がれている。両者の間には互いの領分をおかさないという暗黙の約束が存在した。

それを崩したのが女性の就業率の向上だ。男性の側はおのれの領分が侵食されると恐れ、食い止めようと躍起に

生み育てる力が穀物を実らせる力と同一視されたとき、母系制が成立する条件がそろった。

母系原理が女性の存在そのものに根差している以上、それがたやすく途絶えると見通すのは難しい。それでも、クオータ制が男女格差の縮小に有効と考えられるのは、それが社会の古層まで変えられなくても、表層は明確に変えることができるからだ。

憲法でクオータ制を定めたルワンダは女性の国会議員の割合が6割を超え、世界1位(2018年9月現在)とされる(外務省ホームページ)。おそらくルワンダの社会には母系原理か、その反転である父系原理が現在も生きているはずだ。それでも国会議員の男女格差を一気に縮めた。

**30代** 国会で男女格差について問われた麻生太郎が天照大神を引き合いに出して答弁し、ネット上で揶揄されている。彼は「日本の場合は天照大神っていうのが女性の神様でこれが一番偉い神様」「従って日本の場合、圧倒的

ニュース日記 732  
**中村 礼治**

## 母系原理が生む男女格差

なつた。それが女性への差別となつてあらわれた。そこには母系原理にしがみつこうとする無意識の願望が隠されている。

吉本は「原始的(母系)制社会の本質」を「兄弟と姉妹のあいだの(対なる幻想)が種族の(共同幻想)に同致するところにあ」と述べている(『共同幻想論』)。総理大臣の堂々たる公私混同が象徴するように、私たちの国は国家と市民社会、公的な領域と私的な領域の分離が欧米の先進国ほど明瞭ではない。それは母系原理が根強く残っていることを意味する。

**30代** なぜそんな古いものが残っているんだ。それが根強いものだとしたら、制度を人為的に導入するくらいでは格差は縮められないのではないか。

**年金** 母系原理は女性が新しい生命を誕生させ、その生命の生殺与奪の権も握っていることに根差している。女性は生命を創造し、その死命を制することのできる神でもある。そんな物語が農耕と結びついたとき、すなわち子を

るか崇められ、仕事を持つのが長い伝統なので、今の男女格差もだんだん縮まってきていると言いたかったのだと思う。麻生が伝統という言葉で言おうとしたのは母系原理を指している。その原理を象徴するのがアマテラスだ。母系原理が男女の役割を固定する機能を持つ以上、それが格差の解消に寄与すると考える麻生のような理解は錯覚というほかない。

農耕以前の狩猟採集の社会では、子を生み育てる力が穀物を実らせる力と同一視された農耕社会のように、女性に固有の力の中に生産力と同一視し得る要素を見つけることができな

い。それは男性にも言える。そこでは男女の役割は固定化されていなかったと推定することができる。資本主義の高度化とテクノロジーの発達が加速する富の稀少性の縮減は、いわば何でも手にし放題だった狩猟採集社会に私たちの社会を近づけている。それがジェンダー平等を求める流れを生む要因のひとつとなっている。